

平成19年度  
小国町立北部小学校「酪農体験授業」

# いのちを大切にする心を育む



平成19年9月15日（土）

小国町立北部小学校5学年及び保護者

# 平成19年小国町立北部小学校5年酪農体験授業の実施報告

## 1 ねらい

自然や動物とのふれあい、牧場・酪農体験活動などを通して、感動・実感を味合わせ、思いやりの心、命を大切に作る心を育み、合わせて食の大切さについて考える機会としていく。

2 日時 平成19年9月15日(土)  
午前10時～午後3時

3 場所 山川牧場(有)蔵王マウンテンファーム  
山形県上山市永野2191-23  
代表取締役 山川喜市氏

4 参加者 小国町立北部小学校 5年生9名及び保護者

5 引率指導者 教頭 舟山良美 5年担任 相馬由美子教諭

## 6 日程

8:00	学校集合
8:10	学校発
10:00	山川牧場到着
10:20	酪農体験活動
12:00	昼食
12:45	酪農体験活動
	①搾乳体験
	②「いのち」について考える
	③バターづくり
	④芋煮会
	⑤小動物とのふれあい体験
15:00	山川牧場出発
17:00	学校着 解散

## 7 事前指導について

本事業を実施するにあつて、「酪農と日本の食料生産、食料事情」について下記の内容で事前学習を行った。

(事前学習：2.5時間)

指導回数	学 習 内 容	学習時間
1	「日本の酪農について」 (1) 資料を活用して ①牛乳が届くまで ② ミルクからできる様々な製品 ③農業生産量の変化	1時間
2	「日本の食料生産と食料事情と酪農について」 (1) 資料を活用して ①酪農が盛んな地域の特徴 ②酪農家の一日 ③生乳の品質管理 ④堆肥について	1.5時間

## 8 事後指導について

体験学習を振り返って、下記のように事後学習を行った。

(事後学習：2時間)

指導回数	学 習 内 容	学習時間
1	「酪農体験を振り返って」 (1) 資料を活用して ①牧場で行われるリサイクル ②酪農家の役割	1時間
2	「酪農体験を振り返って」 (1) 体験記をまとめる	1時間

# 酪農体験事業を終えて

## 《児童の感想より》

山川牧場に行きました。そして、牛乳を使ってバターを作りました。バターの作り方なんて知らなかったの、とても楽しみにでした。ペットボトルに牛乳を入れて思いっきりふりました。私は、

「手が痛い」

といました。私は、いつまでもできなくて遅くなってしまいました。見たら、いきなり大きなかたまりができていました。あまり味がしなかったけど、上手にできてよかったです。

バスで、山川牧場に行きました。一番楽しかったのは、バター作りです。ペットボトルの牛乳を上下にふりました。途中でつかれたので、お父さんと呼んでやってもらいました。それから自分でふったらいつのまにかできていました。

「あっできてる。」

そして、カップに入れて少し食べました。味がなくて、なんだと思いました。楽しかったです。



朝から学校に集まってバスで牧場体験に行きました。8時に集まりました。牧場について、犬ややぎがいました。荷物を置いて牛たちを見に行きました。教室で見た時よりかなり大きかったです。

体をさわった後、乳しぼりをしました。いっぱいでした。バケツにジュージューと牛乳が落ちていくのがよかったです。その後、みんなで針金にさわって、感電するかためして見ました。もう一回行ってみたいです。

今日は、牧場で体験学習をしました。まずバスで牧場まで行って、酪農のことをいろいろと教えてもらいました。牛の話をしました。

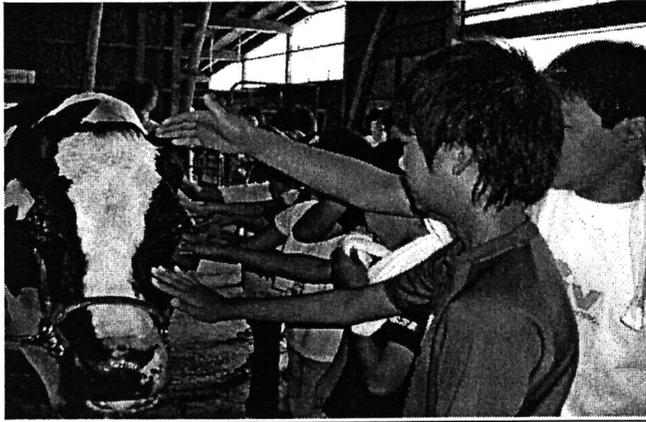
例えば、心臓はどこにあるかとか、牛の胃は四つだとか教えてもらいました。牧場では、牛は一回に平均二十キロぐらい牛乳を出すので、一日に四十キロぐらい出してくれるそうです。わたしは、すごくびっくりしました。

実際に牛乳をしぼってみました。しぼった牛乳は、子牛に飲ませました。子牛に飲ませる時「力があるな。」と思いました。その後、バターを作りました。

私は、二回目だったので作り方を知っていました。バターを作った後の牛乳を飲んだら、今日の方があまいような気がしました。クイズも答えられてよかったです。



まちにまった牧場体験がありました。ちょっとおくれたけど、わくわくしながらバスに乗りました。最初、バスの中で伝言ゲームをしました。4回ぐらいしました。



ついでから見学をしました。牛にさわったり、ちちをしぼったりしました。次にバターを作りました。おもいきり上下にふったらできました。うれしかったです。

弁当と芋煮を食べました。残さないように、康平君と頑張っておきました。康平君は残したけど、ぼくは全部食べました。また今度家族でいきたいです。

---

酪農体験授業がありました。着いたら犬がいました。犬の名前は、ウシでした。最初に荷物をおいて牛がいるところに行きました。お話を聞きました。次に乳しぼりをしました。ぼくはしませんでした。子牛にミルクをあげました。淳君と一緒にやりました。最後に牛と記念撮影をしました。

---

15日に山川牧場に行きました。バター作りをしました。何年か前にも一回だけやったことがありました。ペットボトルに入れてふりました。かなり体力を使いました。だからお母さんに手伝ってもらいました。5分から10分近くふっていると大きなかたまりが見えました。すごく嬉しかったです。前より大変に感じました。

---

10時ころ山川牧場に着きました。荷物を置いてから小屋の中に入って牛の体をさわって見ました。そしたら、すごく温かかったです。次に乳しぼりをしました。最初は、でにくかったけど後からなれてきて、けっこうしぼれました。

その後、みんなでバターを作りました。お父さんとお母さんとぼくで協力して作りました。

---

牧場に行きました。そして、まず牛のような犬に会いました。次に説明を聞いて乳しぼりをしました。思ったよりかたかったです。しぼった牛乳は子牛に飲ませました。次にバターを作りました。ペットボトルに牛乳を入れてふりました。かたまりが出てきました。

その後に、話を聞きました。鳥のじゅみょうや牛、ぶたのじゅみょうを聞きました。そして、弁当と芋煮を食べました。おいしかったです。ぼくは、こういう物は、残してはいけないと思いました。

---

## 《保護者の感想より》

乳搾り、ほ乳瓶での子牛へのミルクあげ、バターづくりと何もかも初めての体験で、すごく楽しかったです。ふだん出来ないことを自然の中で体験でき、とても勉強にな



りました。

食に対してのお話では、子どもへの教え方について改めて考えることができました。体験学習を通じて、自然にふれあい、生きることの大切さ、食に対することを改めて子どもも私自身も感じることができました。

今回は、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

娘はとても興味深かったようで、夏休みに買った自由研究の本で調べながら市販の牛乳に生クリームを加えて、ペットボトルでバターを作ってみました。同じようにできました。

搾乳は、私自身も初めての体験でした。牛の体温を肌で感じ、同じ生き物であることを改めて感じました。

酪農体験授業に参加させていただき、ありがとうございました。乳搾り体験など初めてのことで、楽しくすごさせていただきました。一番感心させられたのは、やはり食がすすまないと、栄養のためだからとか、緑や赤だから食べなさいと言っただけではだめだと言うことです。

食べても一口だったのが、山川さんの話を聞いて食に感謝することだと知ったら、食べること食べること。びっくりしています。我が家は、魚つりをするし、マタギの家でもあるので、もう少し感謝して、話し合っていきたいと思いました。ありがとうございました。

乳搾りの説明も詳しく、親しみやすく教えてくれて楽しかったです。

「酪農体験授業」に参加させていただきまして、ありがとうございました。とても楽しく有意義な一日が過ごせました。動物たちの寿命について、深く考えたこともありませんでした。当たり前のように手に入れていた食品が、成長するまでに大変であること。市場を移動して、三度目は死のドライブになってしまうこと。また、涙を流したり、ふるえたりする牛たちの様子も教えていただきました。



白いお乳の前は、赤い血であり、その前は茶色い土であり、種であり、根源であり、色々考えさせられながらお話をいただきました。これからは、子どもたちと、この体験を活かして会話

しながら、命の大切さ、食についての大切さなど忘れないように心していきたいと思えます。

手作りのソフトクリームやイモ煮、おいしい弁当など食べきれないくらいごちそうになり、大変おいしく、楽しいランチタイムとなりました。毎年他の学年の子どもたちも体験できたら幸いと思えます。

---

この度は親子共々、貴重な体験をさせていただき、感謝しております。乳牛の乳しぼりやバター作りなどを親子で体験でき大変良かったです。家畜用の牛、豚、鳥の寿命がどの位かなど、親さえも考えていなかったことを知ることができ、命の尊さや食べ物への感謝を再確認できました。

---

「いのち」の勉強はとても大切なことだと思います。私自身も小さいころから一番大切なものは「いのち」だということを教えられてきました。今回の体験を通して、少しでも子どもたちに伝わればと思います。乳しぼり、バター作り、家の子どもたちは、とても喜んでやったようです。特にバターは、家に帰ってから実際にパンをぬって食べ、あっという間に終わってしまいました。「おいしい」を連発していました。

---

普段、森林や小動物とふれあうことはあっても牛ややぎ等の動物たちとふれあい、飼育する大変さを知らずに生活をしていました。今回の体験で、ただかわいがるだけでなく、命の大切さなどを親子共に考える良い機会でした。

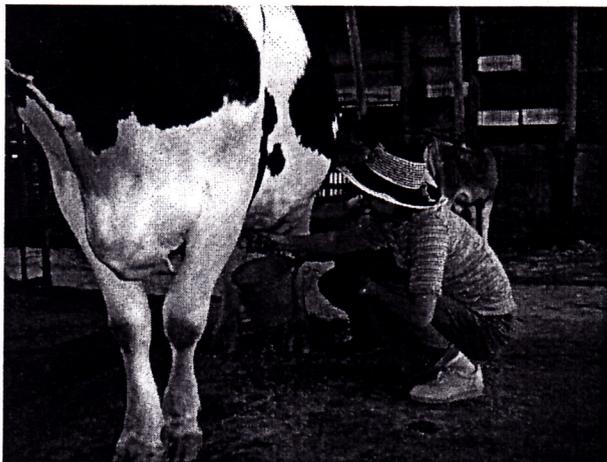
乳搾りやバターづくりもとても楽しかったです。家族でおしく食べました。

---

先日は、大変貴重な体験をさせていただきまして誠にありがとうございました。子どもたちはもちろん、私たち親でも普段の生活では体験できない事、また考えても見なかった事を子どもなり、また大人なりに考えさせられた気がします。

この体験がなければ何気なく過ごしていたと思いますが、食について、命について考える時間ができたことがありがたい体験でした。

---



酪農は子どもたちにとってあまり身近なものではないので、ただ牛に触れられたり、乳しぼりができた事が嬉しかったです。

子どもたちにとっての動物は、ペットしか考えられないので、動物の命を人間が決めるという話は、大変驚きでした。

スーパーに並んでいる肉と牧場にいる牛とは結びつかないようです。今まで、牛の乳搾りが「したい、したい」と言っていた子どもたちの願いが叶って本当に喜んでます。

---

## 《教師の感想より》

食について語るとき、栄養の面が強調され、自然の循環の中で生かされていることが、話されていないというお話にはっとした。その生き物の命の時間が、本来持っている寿命からほど遠い短い時間で、それが人間によって決められているということも、子どもたち同様に強く心に残りました。

---

時間的な制約もあると思うが、もう少し深い体験で「生命」を感じる（感じさせる）ことができるようになった。事前学習との関連や現場でしかできないこと、見られないもの、聞けないことがもっと強調されるとよかったのではないかと思う。

---

子どもたちの実生活や普段の学習では、決して味わうことのできない貴重な体験を一人一人の児童が体得することができ、大変良かったと思う。本地区の実態から言っても、大変価値の高い学習内容であったと振り返っている。

「いのち」の学習の切り込み口はいろいろとある。本校では、3、4年生が総合的な学習の時間に「いのち」をテーマとした学習を展開している。その内容は、「植物を育て、それを食し、それを活用し、それで人間は活かされているということに気づかせる」というものである。体験を積む中で、子どもたちは、様々なことを感じ、その中で「いのち」の大切さについても気づいている。

今回の酪農体験学習は、同じ体験でも「生きているものに直に触れる」というインパクトの強い内容で、その分感動も大きかったように思う。体温を直接感じとった子どもたちは、あの温かい牛の体液を毎日飲んでいるとうことに不思議な感覚を持ったようである。そして、体温を感じた牛の肉を何気なく食べているということに、「はっと」させられた子も多かった。まさに、体験することによって、感じ、気づく「いのち」学習である。

これからも機会があれば、是非参加させていきたいと考えている。

